

mendex：索引整形ツール

version 3.10 [5-Dec-2025]

アスキー・メディアワークス 日本語 T_EX 開発コミュニティ

2026 年 2 月 15 日

概要

mendex は文書の索引を作成するコマンドラインツールです。L^AT_EX により抽出された索引リストファイル (.idx) を並べ替え、実際の索引のソースファイルの形に整形します。makeindex と互換性があり、さらに「読み」の扱いの手間を減らすように特殊化されています。出力される索引の形式は、スタイルファイルに従って決定されます。また、辞書ファイルを与えることにより、索引中の漢字の読みが登録されます。索引の階層は 3 段階まで作成することができます。

目次

1	使用法	2
1.1	オプション	2
1.2	スタイルファイル	3
1.3	参考：makeindex との比較	7
2	日本語の扱いについて	8
3	ソート方法について	8
4	環境変数・kpathsea ライブラリ変数について	9
5	既知の問題	9
6	トラブルシューティング	9
6.1	gind.ist や gglo.ist が使えない	9
6.2	漢字の読みを与えたつもりなのにエラーが出る	9
7	バグ報告先・開発元	10
付録 A	索引スタイルの例 (jpbase.ist)	11

1 使用法

はじめに mendex の使用法を示します。

```
mendex [-ilqrcgfEJSU] [-s <sty>] [-d <dic>] [-o <ind>] [-t <log>] [-p <no>] [-I <enc>]  
      [--help] [--version] [--] [<idx0> <idx1> <idx2> ...]
```

1.1 オプション

mendex で利用可能なオプションは以下の通りです。

- i 索引リストファイルが指定されている場合でも、標準入力を索引リストとして使用します。
- l 単語と単語の間のスペースを無視して詰め、索引のソートを文字順で行います。指定されなければ単語順のソートになります（ソート方法については後述）。
- q 静粛モードです。エラーおよび警告以外は標準エラー出力に出力しません。
- r ページ範囲表現を無効にします。指定しないと、連続して出てくる索引については“1-5”のようにページ範囲で表現されます。
- c スペースやタブといったブランクを短縮して、すべて1個の半角スペースにします。また、前後のブランクは削除されます。
- g 日本語の頭文字の区切りを「あかさた……わ」にします。指定しないと「あいうえ……わゐゑをん」になります。
- f 辞書ファイルにない漢字も強制的に出力するモードです。
- s <sty> ファイル <sty> をスタイルファイルと見なします。スタイルファイルを指定しなければ、デフォルトの索引形式で作成します。
- d <dic> ファイル <dic> を辞書ファイルと見なします。辞書ファイルは日本語の“<漢字> <読み>”のリストで構成されます。
- o <ind> ファイル <ind> を出力ファイルと見なします。指定がない場合は最初の入力ファイルの拡張子を.indとしたもの、入力ファイルが標準入力のみであれば標準出力に出力します。
- t <log> ファイル <log> をログファイルと見なします。指定がない場合は最初の入力ファイルの拡張子を.ilgとしたもの、入力ファイルが標準入力のみであれば標準エラー出力のみに出力されます。
- p <no> <no> を索引ページの先頭ページとして指定します。また、T_EX のログファイル(.log)を参照することにより any（最終ページの次のページから）、odd（最終ページの次の奇数ページから）、even（最終ページの次の偶数ページから）といった指定の仕方も可能です。
- E 入出力文字エンコーディングを EUC-JP に指定します。入力ファイル、出力ファイルとも EUC-JP として扱います。
- J 入出力文字エンコーディングを JIS (ISO-2022-JP) に指定します。入力ファイル、出力ファイルとも JIS として扱います。
- S 入出力文字エンコーディングを Shift_JIS に指定します。入力ファイル、出力ファイルとも Shift_JIS として扱います。
- U 入出力文字エンコーディングを UTF-8 に指定します。入力ファイル、出力ファイルとも UTF-8

として扱います。

-I *<enc>* 内部バッファの文字エンコーディングを *<enc>* に指定します。 *<enc>* には euc (EUC-JP) または utf8 (UTF-8) が指定可能です。このオプションが指定されていない場合のデフォルト値は utf8 です^{*1}。

--guess-input-enc および --no-guess-input-enc

入力ファイルの文字コード推測機能を明示的に有効化または無効化します。T_EX Live 2023 以降では、デフォルトで文字コード推測機能が有効です。

--help オプションの要約を表示します。

--version バージョンの情報を表示します。^{*2}

-- 以降はオプション文字列と解釈しません。これは、ファイル名の先頭の文字が - であるファイルを扱う場合に有用です。

以上のうち、オプション -U, -I, --[no-]guess-input-enc, --help, --version, -- はオリジナルのアスキー版にはなかった機能で、日本語 T_EX 開発コミュニティによって追加されました。また、mendex version 3.5 [6-Jun-2021] 以降では、-s オプションによるスタイルファイルを複数指定することができます。同じパラメータが複数回指定された場合は、後から指定された方が有効になります。

1.2 スタイルファイル

スタイルファイルは makeindex のものと上位互換です。形式は “*<スタイルパラメータ> <引数>*” のリストで構成されます。パラメータの記述順序は自由です。また ‘%’ 以降はコメントと見なされます。

以下にスタイルパラメータとそのデフォルト値の一覧を示します。

- 文字列型は ‘a’ のように単引用符で囲みます。
- 文字型は “abc” のように二重引用符で囲みます。
- 整数型は単に 「1」 のように 10 進数表記で記述します。

基本的には 1 行に 1 項目を記述しますが、文字列型はその値の直前や値の途中で改行しても構いません。

■入力ファイルスタイルパラメータ

keyword	<i><文字列></i> 規定値：“\\indexentry” 処理対象とする索引エントリを引数として持つコマンド。 入力ファイル (.idx) に現れるエントリのうち、mendex は keyword で指定された以外の項目を無視します。
arg_open	<i><文字></i> 規定値：‘{’ 索引エントリ文字列開始を表す文字。
arg_close	<i><文字></i> 規定値：‘}’ 索引エントリ文字列終了を表す文字。
range_open	<i><文字></i> 規定値：‘(’

^{*1} v2.6f までは「デフォルト値が euc で、オプション -U が明示的に指定されている場合は utf8 となる」という仕様でしたが、v3.0 で変更しました。

^{*2} version 3.10 [5-Dec-2025] で追加されました。

	ページ範囲の開始を示す文字.
range_close	〈文字〉 規定値: ') '
	ページ範囲の終了を示す文字.
level	〈文字〉 規定値: ' ! '
	従属レベルであることを示す文字.
actual	〈文字〉 規定値: ' @ '
	このシンボルに続く文字列が実際の索引文字列として出力ファイルに書かれる. makeindex で日本語の索引を作成しようとするとき、全ての項目について <code>\index{かんじ@漢字}</code> のように <code>actual</code> のシンボルの前に「読み」を、後ろに実際に表示する索引文字列を書く必要がありました. <code>mindex</code> では辞書ファイルを用いることで手間を最小限にできますが、辞書と異なる読みを持つ項目がある場合にこの書式を用います.
encap	〈文字〉 規定値: ' '
	このシンボルに続く文字列が、ページ番号に付くコマンド名として使われる.
page_compositor	〈文字列〉 規定値: "-"
	階層化されたページ番号における階層間の区切り文字.
page_precedence	〈文字列〉 規定値: "rnaRA"
	ページ番号の記法の優先順位. 'R' および 'r' はローマ数字, 'n' はアラビア数字, 'A' および 'a' はアルファベットによる記法を表す.*3
quote	〈文字〉 規定値: ' " '
	mindex のパラメータ文字に対するエスケープキャラクタ.
escape	〈文字〉 規定値: ' \ \'
	一般的な文字に対するエスケープキャラクタ.

■出力ファイルスタイルパラメータ

preamble	〈文字列〉 規定値: "\begin{theindex}\n"
	出力ファイル先頭の文字列.
postamble	〈文字列〉 規定値: "\n\n\\end{theindex}\n"
	出力ファイル末尾の文字列.
setpage_prefix	〈文字列〉 規定値: "\n_{\setcounter{page}{"
	開始ページを設定するときの、ページ番号の前に付ける文字列.
setpage_suffix	〈文字列〉 規定値: "}\n"
	開始ページを設定するときの、ページ番号の後に付ける文字列.
group_skip	〈文字列〉 規定値: "\n_{\indexspace\n"
	新項目 (頭文字) の前に挿入する縦スペースを表す文字列.
lethead_prefix	〈文字列〉 規定値: ""
	頭文字の前に付けるコマンド文字列. makeindex はこのパラメータを認識しません.
heading_prefix	〈文字列〉 規定値: ""

*3 ローマ数字とアラビア数字のページ番号が混在するとき、makeindex 並みに動作するようになったのは version 3.6 [4-Sep-2021] 以降.

	ページ番号が 2 ページ連続する場合に, <code>delim_n</code> と 2 ページ目の番号の代わりに付加する文字列. 文字列が定義されている場合にのみ有効.
<code>suffix_3p</code>	<p>〈文字列〉 規定値: ""</p> <p>ページ番号が 3 ページ連続する場合に, <code>delim_r</code> と 3 ページ目の番号の代わりに付加する文字列. <code>suffix_mp</code> より優先される. 文字列が定義されている場合にのみ有効.</p>
<code>suffix_mp</code>	<p>〈文字列〉 規定値: ""</p> <p>ページ番号が 3 ページまたはそれ以上連続する場合に, <code>delim_r</code> と末尾のページ番号の代わりに付加する文字列. 文字列が定義されている場合にのみ有効.</p>
<code>encap_prefix</code>	<p>〈文字列〉 規定値: ""</p> <p>ページ番号にコマンドを付けるときの, コマンド名の前に付ける文字列.</p>
<code>encap_infix</code>	<p>〈文字列〉 規定値: "{"</p> <p>ページ番号にコマンドを付けるときの, ページ番号の前に付ける文字列.</p>
<code>encap_suffix</code>	<p>〈文字列〉 規定値: "}"</p> <p>ページ番号にコマンドを付けるときの, ページ番号の後に付ける文字列.</p>
<code>line_max</code>	<p>〈整数〉 規定値: 72</p> <p>1 行の最大文字数. それを超えると折り返す.</p>
<code>indent_space</code>	<p>〈文字列〉 規定値: "\t\t"</p> <p>折り返した行の頭に挿入するスペース.</p>
<code>indent_length</code>	<p>〈整数〉 規定値: 16</p> <p>折り返した行の頭に挿入されるスペースの長さ.</p>
<code>symhead_positive</code>	<p>〈文字列〉 規定値: "Symbols"</p> <p><code>lethead_flag</code> (または <code>heading_flag</code> または <code>headings_flag</code>) が正数の場合に記号の頭文字として出力する文字列.</p>
<code>symhead_negative</code>	<p>〈文字列〉 規定値: "symbols"</p> <p><code>lethead_flag</code> (または <code>heading_flag</code> または <code>headings_flag</code>) が負数の場合に記号の頭文字として出力する文字列.</p>
<code>symbol</code>	<p>〈文字列〉 規定値: ""</p> <p><code>symbol_flag</code> が 0 でない場合に, 記号の頭文字として出力する文字列. 文字列が定義されていれば, <code>symhead_positive</code> および <code>symhead_negative</code> より優先される. (mendex 専用)</p>
<code>numhead_positive</code>	<p>〈文字列〉 規定値: "Numbers"</p> <p><code>lethead_flag</code> (または <code>heading_flag</code> または <code>headings_flag</code>) が正数, かつ <code>symbol_flag</code> が 2 の場合に数字の頭文字として出力する文字列.</p>
<code>numhead_negative</code>	<p>〈文字列〉 規定値: "numbers"</p> <p><code>lethead_flag</code> (または <code>heading_flag</code> または <code>headings_flag</code>) が負数, かつ <code>symbol_flag</code> が 2 の場合に数字の頭文字として出力する文字列.</p>
<code>symbol_flag</code>	<p>〈整数〉 規定値: 1</p> <p>数字・記号の頭文字の出力フラグ. 0 のとき見出しを出力しない. 1 のとき数字を記号の一部として扱い記号の見出しを出力する. 2 のとき数字と記号を別の集合に分類し数字と記号の見出しを出力する. (mendex 専用, 値 2 のサポートは v3.6 以降)</p>

letter_head	<p>〈整数〉 規定値：1</p> <p>日本語の頭文字の出力のフラグ。1 のときカタカナ，2 のときひらがなで出力する。（mendex 専用）</p>
priority	<p>〈整数〉 規定値：0</p> <p>英字と日本語との混在した索引語のソート方法についてのフラグ。0 でなければ英字と日本語との間に半角スペースを入れた状態でソートする。（mendex 専用）</p>
character_order	<p>〈文字列〉 規定値："SNEJ"</p> <p>記号，英字，日本語の優先順位。‘S’ は記号，‘N’ は数字，‘E’ は英字，‘J’ は日本語を表す。（mendex 専用）</p> <p>後述のとおり，symbol_flag が 1 以下の場合に mendex は索引項目の分類として「数字」は「記号」に含める仕様としています^{*4}ので，‘S’ と ‘N’ は必ず隣り合わせてください（数字と数字以外の記号の順序入れ替えは可能です）。</p> <p>なお，character_order に関係する文字種の判別においては，半角スペースも「記号」として扱われますので，注意してください。</p>

1.3 参考：makeindex との比較

mendex は基本的に makeindex と互換ですが，以下の点で異なります。

- makeindex には索引項目の分類として「記号」，「アルファベット」の他に，数字のみの項目として「数字」という分類がありますが，mendex では symbol_flag が 1 以下の場合に数字を「記号」に含めます。また，そのとき makeindex に存在するスタイルパラメータのうち，numhead_positive と numhead_negative は認識されません。mendex v3.6 以降では symbol_flag を 2 に設定すると「記号」と「数字」が区別され numhead_positive と numhead_negative は認識されます。
- 数字・記号→欧文→和文の順にこだわらない索引の作成が可能です（character_order パラメータを追加）。他に mendex で追加されたスタイルパラメータには，symbol，symbol_flag，letter_head，priority があります。
- makeindex の headings_flag は，mendex v3.5 以前では heading_flag となっており互換性はありませんでしたが，mendex v3.6 に headings_flag が追加されました。また，lethead_flag，lethead_prefix，lethead_suffix は，かつて makeindex の文書で言及されていましたが，現在は削除され mendex 専用となっています。
- makeindex の項目の並び順は，頭文字は「記号」「数字」「アルファベット」に分けて並べられますが，2 文字目以降は単純に ASCII コード順となり，記号よりアルファベットが先になる場合もあります。mendex の英数字の並びは，2 文字目以降も「記号」「数字」「アルファベット」の分類が考慮されます。
- makeindex には -g オプションでドイツ語辞書順（記号→アルファベット小文字→アルファベット大文字→数字）で並べるようにできますが，mendex ではサポートしていません。代わりに，-g オプションは日本語の頭文字の区切りを切り換えるオプションになっています。

^{*4} makeindex では，記号類と数字を別のブロックに（group_skip を挿入）しますが，mendex では同一のブロックにします。

2 日本語の扱いについて

mendex は日本語の索引をできるだけ楽に扱えるようになっています。makeindex では日本語の索引が正しく辞書順にソートするためには、ひらがなまたはカタカナに揃え、拗音、撥音、濁点を除いた読みを付けなければなりません（自動的に揃えるバージョンもある）。mendex ではカナについてはすべて自動的に揃え、また漢字については辞書ファイルを設定することにより各索引語ごとに読みを付ける作業をかなり解消できます。以下に内部でのカナの変換例を示します。

かぶしきがいしゃ	かふしきかいしゃ
マッキントッシュ	まつきんとつしゅ
ワープロ	わあふろ

辞書ファイルは“〈漢字〉 〈読み〉”のリストで構成されます。〈漢字〉と〈読み〉の区切りはタブまたはスペースです。以下に辞書の例を示します。

漢字	かんじ
読み	よみ
環境	かんきょう
α	アルファ

辞書に登録する漢字については、読み方が1通りになるよう送り仮名を付けてください。「表」、「性質」のように送り仮名によらず2通りの読み方ができる語についてはどちらか1つしか登録できません。他の読み方については各索引語へ読みを付けることで対応してください。また、環境変数 INDEXDEFAULTDICTIONARY に辞書ファイルを登録することにより、自動的に辞書を参照します。環境変数に登録した辞書は -d で指定した辞書と併用できます。

3 ソート方法について

mendex は通常は入力された索引語をそのままソートします。-l オプションが付けられた場合、複数の単語で構成される索引語については、ソートするときに単語と単語の間のスペースを詰めてソートします。ここでは前者を単語順ソート、後者を文字順ソートと呼ぶことにします。文字順ソートの場合、実際に出力される文字列はスペースを含んだ状態のもので、索引語自体が変化することはありません。以下に例を示します。

単語順ソート	文字順ソート
X Window	Xlib
Xlib	XView
XView	X Window

また、日本語－英字間でも似たようなソート方法があります。スタイルファイルで priority を 0 以外に指定した場合、隣接した日本語と英字の間に半角スペースを入れてソートします。以下に例を示します。


```

priority 0   priority 1
index sort   ind ファイル
ind ファイル index sort

```

4 環境変数・kpathsea ライブラリ変数について

mendex では、texmf.cnf や環境変数で以下の変数を設定すればそれを使用します。

INDEXSTYLE	索引スタイルファイルがあるディレクトリ。
INDEXDEFAULTSTYLE	デフォルトで参照する索引スタイルファイル。
INDEXDICTIONARY	辞書があるディレクトリ。
INDEXDEFAULTDICTIONARY	常に参照する辞書ファイル。
guess_input_kanji_encoding	入力ファイルの文字コード推測機能を有効とするか否か (TeX Live 2023 以降)。値が 1 ならば有効, 0 ならば無効。

5 既知の問題

複数のページ記法を使用する場合、ページ順に索引リストファイル (.idx) を与えないとページ番号を誤認することがあります。

6 トラブルシューティング

mendex でも、makeindex 用のスタイルファイルを流用することができる場合があります。ただし、期待通りに動作しない場合もあるため、注意点を挙げておきます。

6.1 gind.ist や gglo.ist が使えない

L^AT_EX 2_ε 付属の gind.ist や gglo.ist は、doc パッケージと併用することを想定して作られています。

```

! Undefined control sequence.
1.3 \makeatletter\scan@allowedfalse

```

のエラーを避けるために、\usepackage{doc} を追加してください。

6.2 漢字の読みを与えたつもりなのにエラーが出る

辞書ファイルを使用しない、あるいは辞書ファイルと異なる読みを個別指定する場合に \index{かんじ@漢字} の書式で「読み」を指定したにもかかわらず、

```

Error: 漢字 is no entry in dictionary file in mybook.idx, line 1.
0 entries accepted, 1 rejected.

```

のようなエラーが出て、索引が作成されないことがあります。ここでオプション -f を使用しても、実際に出

力される索引文字列が `かんじ@漢字` となってしまいます.

この原因の多くは, スタイルファイルが `actual` を `@` から他の文字に変更している場合です. 例えば `gind.ist` や `gglo.ist`, その派生スタイルファイルは `actual` を `=` に変更していますので, それらを使用する場合は `\index{かんじ=漢字}` の書式を用いるのが正しい「読み」の指定法です.

7 バグ報告先・開発元

現在, `mendex` は日本語 $\mathrm{T}_{\mathrm{E}}\mathrm{X}$ 開発コミュニティによりメンテナンスされています.

- <https://github.com/texjporg/tex-jp-build> (本体のソースコード)
- <https://github.com/texjporg/mendex-doc> (この文書を含むドキュメント類)

参考文献

- [1] 吉永 徹美 著, 「LaTeX2e 辞典 増補改訂版」, 翔泳社, 2018.
- [2] munepi, 「ぼくのかんがえたさいきょうの LaTeX 索引スタイルファイル」, 2019/12/09.
<https://qiita.com/munepi/items/2e1524859e24b5fb44bc>
- [3] Yoshiki KUMAZAWA, 「makeidx.sty: LaTeX パッケージ」.
<http://xyoshiki.web.fc2.com/tex/makeidx.html>

付録 A 索引スタイルの例 (jpbased.ist)

この文書と一緒に配布している索引スタイル jpbased.ist について説明します。
主な内容は以下の通りです（全体は実際のファイル参照）。

```
%% Use general commands (M. Yamamoto, @munepi)
headings_flag      1
heading_prefix     "\n\makeidxhead{"
heading_suffix     "}"
delim_0            "\\idxdelim "
delim_1            "\\idxdelim "
delim_2            "\\idxdelim "
symhead_positive   "\\symbolindexname"
%
heading_flag      1
symbol            "\\symbolindexname"
%
%% Custom settings for mendex
% 見出しをひらがなで出力: 2 (既定値はカタカナ: 1)
letter_head       2
% 並べ替え順を日本語→英字→記号／数字に変更するなら以下を有効に
%character_order  "JESN"
% 日本語と英字の間に半角スペースを入れてソートするなら以下を有効に
%priority         1
%
%% Output design based on dot.ist by Y. Kumazawa
preamble          "\\begin{theindex}\n
\\providecommand\\idxdelim{\\space\\dotfill\\space}
\\providecommand\\makeidxhead[1]{...(略)... #1 ...(略)...}
\\providecommand\\symbolindexname{Symbols}\n"
postamble         "\n\n\\end{theindex}\n"
```

このスタイルでは

- 見出しの飾り → `\makeidxhead`
- 索引項目とページ番号の区切り → `\idxdelim`
- 記号・数字類の見出し文字列 → `\symbolindexname`

という \LaTeX 命令に切り出すことで、ユーザが \LaTeX の範囲内で自由にデザインを定義できるようにしています。デフォルトの定義も `preamble` パラメータで与えますので、これらの命令を定義せずに jpbased.ist

単体でも動作します。既定のデザインは以下のように定義しています。

```
\providecommand{\idxdelim}{\space\dotfill\space}
\providecommand{\makeidxhead}[1]{\{\vbox{\hbox to \linewidth{%
\sfamily\bfseries #1\ \hspace\fill}\vskip1pt\hrule}}\nopagebreak}
\providecommand{\symbolindexname}{Symbols}
```

これらの命令をプリアンブルで予め定義しておけば、それが優先されます。例えば

```
\newcommand{\makeidxhead}[1]{\{\vbox{\hbox to \linewidth{%
\sfamily\bfseries ■ \hfill #1\hfill ■}\vskip1pt\hrule}}\nopagebreak}
```

とすれば見出しの表示形式が ■ あ ■ になりますし、

```
\newcommand{\symbolindexname}{記号・数字}
```

とすれば記号類の見出しが「Symbols」から「記号・数字」に変わります。

以降のページでは、索引スタイルおよびオプションの適用例を示します。

- `mendex sample` (デフォルト通り)
- `mendex -s jpbase sample` (スタイル適用)
- `mendex -s jpbase -g sample` (さらに頭文字の区切りを「あかさ…わ」に)
- 上記スタイルに `priority 1` を追加 (`align` 環境 と `alignat` 環境 の順序に注目)
- 上記スタイルに `character_order "JESN"` を追加
- `mendex -s jpbase -g -l sample` (空白文字を無視して文字順ソートに)

索引スタイル `jpbase.ist` をベースに一部変更したい場合は、ファイルを複製して別名に変更してから編集すると良いでしょう。なお、`mendex version 3.5 [6-Jun-2021]` 以降で利用可能な「スタイルファイルを複数指定できる機能」を用いれば、元の `jpbase.ist` からの追加パラメータのみ記載した小さなスタイルファイル (例えば `mystyle.ist`) を準備して、以下のコマンドで簡単に適用できます。

```
$ mendex -s jpbase -s mystyle ...
```

なお、サンプルとして使用した `sample.idx` は以下の通りです (一部のみ)。

```
% sample.idx
\indexentry{DVI viewer}{18}
\indexentry{コンパイル}{18}
\indexentry{ログファイル}{18}
\indexentry{dvips}{22}
...(略)...
\indexentry{alignかんきょう@align環境}{183}
\indexentry{alignatかんきょう@alignat環境}{184}
...(略)...
\indexentry{キャプション}{288}
\indexentry{フオート}{288}
\indexentry{graphicsパッケージ}{300}
\indexentry{graphicxパッケージ}{300}
```

索引の例 0 (mendex デフォルト)

<, 35, 146

>, 35, 146

abstract 環境, 87

alignat 環境, 184

align 環境, 183

array 環境, 203

ascmac パッケージ, 234

cases 環境, 182

description 環境, 94

DVI viewer, 18

dvips, 22

enumerate 環境, 93, 281

eqnarray 環境, 173

equation 環境, 153, 172

gather 環境, 185

graphics パッケージ, 300

graphicx パッケージ, 300

itemize 環境, 92

minipage 環境, 137, 285

multiline 環境, 185

NFSS, 52

picture 環境, 220, 287

plext パッケージ, 266, 279

quotation 環境, 97

quote 環境, 97

tabbing 環境, 190, 194

tabular 環境, 203, 286

verbatim 環境, 99

アクセント記号, 156

エンコード, 52, 63

演算子, 158

カウンタ, 131

下線, 168

関係演算子, 159, 162

漢数字, 280

キャプション, 288

行列, 169

ギリシャ文字, 161

クラスファイル, 45

合字, 34

コンパイル, 18

サイズ, 53, 68

シェイプ, 53, 67

書体定義ファイル, 75

シリーズ, 52, 66

相互参照, 244

ディスプレイ数式, 152

テキスト数式, 152

二項演算子, 163

パッケージファイル, 45

ファミリー, 52, 64

プリアンブル, 44

プリミティブ, 113

フロート, 288

フロートオブジェクト, 210

分数, 167

平方根, 168

傍点, 282

ボックス, 134

連数字, 279

ログファイル, 18

索引の例 1 (mendex -s jpbase)

Symbols

<	35, 146
>	35, 146

A

abstract 環境	87
alignat 環境	184
align 環境	183
array 環境	203
ascmac パッケージ	234

C

cases 環境	182
----------------	-----

D

description 環境	94
DVI viewer	18
dvips	22

E

enumerate 環境	93, 281
eqnarray 環境	173
equation 環境	153, 172

G

gather 環境	185
graphics パッケージ	300
graphicx パッケージ	300

I

itemize 環境	92
------------------	----

M

minipage 環境	137, 285
multiline 環境	185

N

NFSS	52
------------	----

P

picture 環境	220, 287
plext パッケージ	266, 279

Q

quotation 環境	97
quote 環境	97

T

tabbing 環境	190, 194
tabular 環境	203, 286

V

verbatim 環境	99
-------------------	----

あ

アクセント記号	156
---------------	-----

え

エンコード	52, 63
演算子	158

か

カウンタ	131
------------	-----

下線	168
関係演算子	159, 162
漢数字	280

き

キャプション	288
行列	169
ギリシャ文字	161

く

クラスファイル	45
---------------	----

こ

合字	34
コンパイル	18

さ

サイズ	53, 68
-----------	--------

し

シェイプ	53, 67
書体定義ファイル	75
シリーズ	52, 66

そ

相互参照	244
------------	-----

て

ディスプレイ数式	152
テキスト数式	152

に

二項演算子	163
-------------	-----

は

パッケージファイル	45
-----------------	----

ふ

ファミリ	52, 64
プリアンブル	44
プリミティブ	113
フロート	288
フロートオブジェクト	210
分数	167

へ

平方根	168
-----------	-----

ほ

傍点	282
ボックス	134

れ

連数字	279
-----------	-----

ろ

ログファイル	18
--------------	----

索引の例 2 (mendex -s jpbase -g)

Symbols

<	35, 146
>	35, 146

A

abstract 環境	87
alignat 環境	184
align 環境	183
array 環境	203
ascmac パッケージ	234

C

cases 環境	182
----------------	-----

D

description 環境	94
DVI viewer	18
dvips	22

E

enumerate 環境	93, 281
eqnarray 環境	173
equation 環境	153, 172

G

gather 環境	185
graphics パッケージ	300
graphicx パッケージ	300

I

itemize 環境	92
------------------	----

M

minipage 環境	137, 285
multiline 環境	185

N

NFSS	52
------------	----

P

picture 環境	220, 287
plext パッケージ	266, 279

Q

quotation 環境	97
quote 環境	97

T

tabbing 環境	190, 194
tabular 環境	203, 286

V

verbatim 環境	99
-------------------	----

あ

アクセント記号	156
エンコード	52, 63
演算子	158

か

カウンタ	131
下線	168

関係演算子	159, 162
漢数字	280
キャプション	288
行列	169
ギリシャ文字	161
クラスファイル	45
合字	34
コンパイル	18

さ

サイズ	53, 68
シェイプ	53, 67
書体定義ファイル	75
シリーズ	52, 66
相互参照	244

た

ディスプレイ数式	152
テキスト数式	152

な

二項演算子	163
-------------	-----

は

パッケージファイル	45
ファミリ	52, 64
プリアンブル	44
プリミティブ	113
フロート	288
フロートオブジェクト	210
分数	167
平方根	168
傍点	282
ボックス	134

ら

連数字	279
ログファイル	18

索引の例 3 (スタイルに priority 1 を追加)

Symbols

<	35, 146
>	35, 146

A

abstract 環境	87
align 環境	183
alignat 環境	184
array 環境	203
ascmac パッケージ	234

C

cases 環境	182
----------	-----

D

description 環境	94
DVI viewer	18
dvips	22

E

enumerate 環境	93, 281
eqnarray 環境	173
equation 環境	153, 172

G

gather 環境	185
graphics パッケージ	300
graphicx パッケージ	300

I

itemize 環境	92
------------	----

M

minipage 環境	137, 285
multiline 環境	185

N

NFSS	52
------	----

P

picture 環境	220, 287
plext パッケージ	266, 279

Q

quotation 環境	97
quote 環境	97

T

tabbing 環境	190, 194
tabular 環境	203, 286

V

verbatim 環境	99
-------------	----

あ

アクセント記号	156
エンコード	52, 63
演算子	158

か

カウンタ	131
下線	168

関係演算子	159, 162
漢数字	280
キャプション	288
行列	169
ギリシャ文字	161
クラスファイル	45
合字	34
コンパイル	18

さ

サイズ	53, 68
シェイプ	53, 67
書体定義ファイル	75
シリーズ	52, 66
相互参照	244

た

ディスプレイ数式	152
テキスト数式	152

な

二項演算子	163
-------	-----

は

パッケージファイル	45
ファミリ	52, 64
プリアンブル	44
プリミティブ	113
フロート	288
フロートオブジェクト	210
分数	167
平方根	168
傍点	282
ボックス	134

ら

連数字	279
ログファイル	18

注：例 2 と注意深く見比べてください。既定では日本語文字よりも英字の方が先（“alignat 環境” → “align 環境”）ですが，**priority** を 1 に設定すると，日本語 - 英字間に半角スペースを入れてソートされるため，順番が入れ替わります。

索引の例 4 (スタイルに character_order "JESN"を追加)

あ	
アクセント記号	156
エンコード	52, 63
演算子	158
か	
カウンタ	131
下線	168
関係演算子	159, 162
漢数字	280
キャプション	288
行列	169
ギリシャ文字	161
クラスファイル	45
合字	34
コンパイル	18
さ	
サイズ	53, 68
シェイプ	53, 67
書体定義ファイル	75
シリーズ	52, 66
相互参照	244
た	
ディスプレイ数式	152
テキスト数式	152
な	
二項演算子	163
は	
パッケージファイル	45
ファミリ	52, 64
プリアンブル	44
プリミティブ	113
フロート	288
フロートオブジェクト	210
分数	167
平方根	168
傍点	282
ボックス	134
ら	
連数字	279
ログファイル	18
A	
abstract 環境	87
align 環境	183
alignat 環境	184
array 環境	203
ascmac パッケージ	234
C	
cases 環境	182
D	
description 環境	94
dvips	22
DVI viewer	18
E	
enumerate 環境	93, 281
eqnarray 環境	173
equation 環境	153, 172
G	
gather 環境	185
graphics パッケージ	300
graphicx パッケージ	300
I	
itemize 環境	92
M	
minipage 環境	137, 285
multiline 環境	185
N	
NFSS	52
P	
picture 環境	220, 287
plext パッケージ	266, 279
Q	
quotation 環境	97
quote 環境	97
T	
tabbing 環境	190, 194
tabular 環境	203, 286
V	
verbatim 環境	99
Symbols	
<	35, 146
>	35, 146

注：例 2 と注意深く見比べてください。なお、ここで **priority** は 0 のままとしています。 **character_order** の文字種の判別においては、半角スペースも記号類として扱われます。その結果、日本語文字より英字が後（“align 環境” → “alignat 環境”）かつ、英字より半角スペースが後（“dvips” → “DVI viewer”）になっています。

索引の例 5 (mendex -s jpbase -g -l)

Symbols

<	35, 146
>	35, 146

A

abstract 環境	87
alignat 環境	184
align 環境	183
array 環境	203
ascmac パッケージ	234

C

cases 環境	182
----------------	-----

D

description 環境	94
dvips	22
DVI viewer	18

E

enumerate 環境	93, 281
eqnarray 環境	173
equation 環境	153, 172

G

gather 環境	185
graphics パッケージ	300
graphicx パッケージ	300

I

itemize 環境	92
------------------	----

M

minipage 環境	137, 285
multiline 環境	185

N

NFSS	52
------------	----

P

picture 環境	220, 287
plext パッケージ	266, 279

Q

quotation 環境	97
quote 環境	97

T

tabbing 環境	190, 194
tabular 環境	203, 286

V

verbatim 環境	99
-------------------	----

あ

アクセント記号	156
エンコード	52, 63
演算子	158

か

カウンタ	131
下線	168

関係演算子	159, 162
漢数字	280
キャプション	288
行列	169
ギリシャ文字	161
クラスファイル	45
合字	34
コンパイル	18

さ

サイズ	53, 68
シェイプ	53, 67
書体定義ファイル	75
シリーズ	52, 66
相互参照	244

た

ディスプレイ数式	152
テキスト数式	152

な

二項演算子	163
-------------	-----

は

パッケージファイル	45
ファミリ	52, 64
プリアンブル	44
プリミティブ	113
フロート	288
フロートオブジェクト	210
分数	167
平方根	168
傍点	282
ボックス	134

ら

連数字	279
ログファイル	18

注：例 2 と注意深く見比べてください。-l オプションにより空白文字を無視して文字順 (P → V) に並べたため、“dvips” → “DVI viewer” の順番に入れ替わりました。